



□基本理念

○利用者の心と体をもっと大切に考え、自立と社会参加を援助することを基本理念としています。

○温もりのある心と未来を見通す広い視野をもって、利用者一人一人の持つ能力や才能を存分に発揮できるよう努めます。

Nothing about us without us (私たち抜きで私たちのことを決めないで)

施設長 澤井 康郎

表題の言葉は2006年に国連で障害者権利条約が作成された際に、スローガンとなった言葉です。昨年、6月に第6回松下幸之助杯スピーチコンテストがありました。そこで、入賞した方に熊本大学の学生の岩下唯愛さんがいます。岩下さんのスピーチはこの「Nothing about us without us」(私たち抜きで私たちのことを決めないで)から始まりました。スピーチの題名は「形だけの『共生』ではなく本当に『誰も取り残さない』社会を目指すために」です。岩下さんは障害があり、車椅子ユーザーです。岩下さんは今までも障害当事者として誰一人取り残さない学校づくりを目指して発信してきたそうです。しかし、どれだけ学校現場を多様性あふれるものにしても、その先の社会が包摂的なものでなければ、本当の意味で多様な社会にはなり得ないとおっしゃっています。そこで具体的事例として、コンサート等の劇場を挙げています。例えばコンサートに行った際に、車椅子ユーザーはチケットどおりの席には座れず、固定された車椅子用の席に案内されるのだそうです。健常者なら前の席を取りたいと希望をもてるでしょうが、車椅子ユーザーにはそれができないようです。教育や福祉の分野とは異なり、娯楽だからか放置されたままで、当事者が声を上げる仕組みすら、与えられていない現状です。岩下さんは、最後に「多様性という言葉が流行りのようにあふれている今だからこそ、障害者を自分の自己表現のために使う、見掛け倒しのきれいいごとはいらない、本当に大切なのは声なき声を聴く態度をもつこと、相手を尊重しながら関わることです。」とおっしゃっていました。

このスピーチの講評で慶応大学経済学部教授の井出英策先生がおっしゃっていたことが、非常に印象に残っています。「芸術はみんなの財産なのに、限られた楽しみしか得られない人がいるというのは明らかに不当。」また、金子みすゞの詩「私と小鳥とすずと」の一節「みんなちがって、みんないい」を挙げ、「違うことによって区別されたり差別されたりする人がいるということに、人間としてどのように立ち向かっていくかということをきちんと考えていかねばならない。」とおっしゃっていました。私は、小学校在職中はいじめがなくなるよう、常々この一節を取り上げ、みな一人一人違ってよいのだから、お互いを認め合おうと話してきました。しかし教授のお話から、それだけではだめなんだ、そのあとに差別されない仕組み・工夫を仕組んでいかねばいけないと感じました。今年度より入所施設では、意思決定支援をしていくことが義務化されました。たんぽぽでもこぶしと一緒に学んでいこうと経営計画にも謳っております。17個のSDGsの目標の一つ、10番目の「人や国の不平等をなくそう」の目標を目指して、利用者一人一人の意思を尊重していきたいと思います。



1月の活動予定

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20 海の日	21	22	23	24	25 開所日
26	27	28	29	30	31	

季節の取り組み ♡ 桜 ♡



春の季節にさかのぼりますが、今年もたんぽぽに満開の桜が咲きました。

桜の花びらに利用者の皆さん一人ひとりに「4月から頑張りたいこと」を書いていただきました。

写真撮影にも快くご協力いただきました。

